

平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年2月12日

上場会社名 アドアーズ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4712 URL http://www.adores.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 齊藤 慶
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部部長 (氏名) 上原 聖司 TEL 03 (5843) 8888
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月13日 配当支払開始予定日 _____
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績（平成25年4月1日～平成25年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	17,736	—	1,215	—	1,102	—	1,058	—
25年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 1,060百万円 (-%) 25年3月期第3四半期 -1百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	7.60	—
25年3月期第3四半期	—	—

(注) 平成25年3月期連結会計年度末より連結財務諸表を作成しているため、平成25年3月期第3四半期の数値及び対前期比については記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第3四半期	19,543	11,083	56.7	79.60
25年3月期	20,683	10,162	49.1	72.98

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 11,083百万円 25年3月期 10,162百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	1.00	1.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	2.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	23,000	15.0	1,100	161.0	1,000	168.8	600	262.3	4.30

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 —— 社（社名） 、除外 —— 社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	26年3月期3Q	139,259,092株	25年3月期	139,259,092株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	22,078株	25年3月期	20,114株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	26年3月期3Q	139,237,624株	25年3月期3Q	—株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続きの対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続きは終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によりこれらの予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	1
(1) 経営成績に関する説明	1
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、欧州諸国での緊縮財政や新興国の景気減速懸念など一部不透明感
は拭いきれない状況にあるものの、政府による経済政策や金融緩和政策への期待感や国内景気の回復傾向など明るさも
垣間見える経営環境で推移致しました。

このような状況の中、当社グループにおきましては、新経営体制のもと、子会社のキーノート株式会社（以下、キー
ノート）および株式会社ブレイク（以下、ブレイク）との連携を一層強化し、アドアーズグループとして中期的な視点
での収益基盤の構築を図るべく注力致しました。

主力のアミューズメント事業におきましては、「集客」を最重要課題に、売上の中核ジャンルであるメダルゲームの
強化に加え、景品販売を主軸とするブレイクとの連携を活かしたプライズジャンルの強化を中心に取り組んだほか、店
舗ロケーションを活かしたコラボレーション企画など、リアル・ネット・メディアを活用した販促活動も積極的に展開
致しました。その一方で、店舗従業員の女性比率の向上や独自性のある景品開発など、将来のアミューズメント事業を
牽引できる体制に向け、より顧客目線に立った動きを加速しております。

また第2の柱と位置付ける不動産事業におきましても、キーノートが展開する戸建住宅販売部門では概ね順調に推移
しているほか、Jトラストグループとのリソースを活かすべく当期より立ち上げた不動産アセット部門におきましても、
収益物件取得や流動化不動産の取り扱いなど、全体の収益へ貢献を果たすに至っております。

さらに建築事業におきましても、グループ効率を向上すべくキーノートへ集約致しましたが、この第3四半期からは
徐々に軌道に乗りつつあります。

この結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高17,736百万円、営業利益1,215百万
円、経常利益1,102百万円、四半期純利益1,058百万円となりました。

セグメント別の業績は、次の通りであります。

※前連結会計年度にて期中連結を行っているため、前年同期比較は行っておりません。

【アミューズメント事業】

中核のアミューズメント施設運営部門におきましては、売上の4割以上を担うメダルゲームジャンルの強化に注力す
べく、メダル貸出単価「1,000円＝500枚」施策の継続を基本路線としつつ、コアファンからライトユーザーに向けて独
自性の強いイベントやキャンペーンを多数展開致しました。また新規顧客の獲得に向けては、人気キャラクター・コン
텐츠を活用した景品開発やオリジナル商品の開発などによるプライズジャンルの強化、さらにはロケーションを活か
した影響力の高いコンテンツとのコラボレーション企画やマスメディア露出など、リアル・ネット・メディアを活用し
た販促活動・ブランディング活動を展開致しました。さらにこれらのPR戦略によって注目度が高まる中、カラオケアド
アーズ秋葉原店でのサブカルチャーをフィーチャーしたコンセプトルームへの改装、当社初となるワンフロアすべてを
ダーツ専門フロア（門前仲町店）とするリニューアルなど、多様化する顧客ニーズの中で、当社独自の新たな遊戯シー
ンの提案も図っております。

こうした中、スマートフォンやソーシャルゲーム等の影響を受けたビデオゲームジャンルが依然として苦戦し、当第
3四半期期間（10月～12月）における全体の既存店売上高前年比は95.1%と前年を割り込む結果となりましたが、収益
力の高いメダルゲームジャンル、また新規顧客獲得の原動力となるプライズジャンルにおいて、前年同水準を確保した
結果、セグメント利益においては増益を果たしました。また景品販売部門におきましても、企画力や商品力による販売
戦略がプライズジャンルを押し上げた結果、堅調に推移致しました。

以上の結果、アミューズメント事業の業績におきましては、売上高は12,781百万円、セグメント利益1,136百万円と
なりました。

ご参考：平成26年3月期12月度までの既存店売上高前年比

	4月	5月	6月	第1Q 平均	7月	8月	9月	第2Q 平均	上半期 平均
既存店売上 高前年比	92.0%	96.0%	97.9%	95.3%	96.3%	103.2%	95.3%	98.4%	96.9%
	10月	11月	12月	第3Q 平均	1月	2月	3月	第4Q 平均	通期
既存店売上 高前年比	93.1%	95.1%	97.0%	95.1%	—	—	—	—	—

なお、当第3四半期連結累計期間における出退店につきましては、アドアーズ海老名店、アドアーズ三ツ境店、アド
アーズDEN池袋店、アドアーズ川越店、アドアーズ川口店、アドアーズ蒲田西口店A館、ゲームファンタジア東中野
店、アドスロ高田馬場店の8店舗に加え、ブレイクが運営するゲームゴールデン上野店を閉店しており、当第3四半期
連結累計期間末時点における店舗数は59店舗となりました。

なお、当第3四半期決算短信発表時点におきましては、さらにアドアーズ鶴見店A館を閉店しており、現時点での店
舗数は58店舗となります。

【不動産事業】

キーノートが展開する戸建住宅販売部門におきましては、国内景気の回復機運や消費税増税前の住宅ニーズにも下支えされ、概ね順調に推移致しました。また当期より立ち上げた不動産アセット部門におきましても、流動化不動産の売却や都心部を中心とした収益物件の仕入れや販売など、概ね順調に推移しております。

この結果、不動産事業における売上高は3,878百万円、セグメント利益468百万円となりました。なお当第3四半期連結累計期間においては、想定収益との乖離が大きかった物件など一部売却を実施した結果、2百万円の特別損失を計上しております。

【建築事業】

商業施設向けの建築事業におきましては、キーノートへの集約に伴う体制変更・整備を進める中、新規を含む複数のパチンコホールやカラオケ店等、大型商業施設案件を手掛けたこと等により、当事業における売上高は1,115百万円、セグメント利益40百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べて1,140百万円減の19,543百万円となりました。これは主として、有形固定資産の売却及び償却進行による減少と敷金及び保証金の返還によるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べて2,061百万円減の8,460百万円となりました。これは主として未払金の減少及び、有利子負債を圧縮したことによるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べて920百万円増の11,083百万円となりました。これは主として配当金の支払及び四半期純利益の計上による影響であります。

この結果、自己資本比率は56.7%（前連結会計年度末は49.1%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間におきましては、上向きつつある市況下において主力のアミューズメント事業を中心に、概ね計画通りの業績を確保し、下期の最重要商戦期である年末年始商戦も概ね順調に推移しております。

今後のアミューズメント事業におきましては、収益力が高く、且つ独自の顧客網を有するメダルゲームを引き続き主力ジャンルと位置づけながらも、当社ならではのイベントやサービス等付加価値を付けることで、更なる強化を図ってまいります。また、ブレイクとの連携をより密なものとし、独自性の高いアミューズメント景品の開発・提供を通じて、新規顧客層の獲得を徹底的に推進、収益の安定的な拡大に努めてまいります。

店舗運営を支える人材面におきましても、女性スタッフの拡充を中心に若手スタッフの活性化ならびに積極登用など、流行に敏感でありながら顧客目線も併せ持つサービス開発と提供を目指してまいります。その一方でベテランスタッフにおきましても、これまでのノウハウを今後の新規事業や独自のサービス作りに転化することで、今後の収益の柱となり得るビジネス基盤の構築を目指してまいります。

不動産事業におきましては、既存の戸建販売事業の収益向上はもとより、Jトラストグループが有する様々な経営資源・不動産情報の有効活用による不動産アセット部門の収益基盤拡大へ注力してまいります。また、建築事業におきましては、より一層の住・商幅広い顧客への対応力の強化を推し進めることで、デザイン力を基軸とした新規案件の獲得、ならびに既存顧客への継続営業、さらに業務効率の向上等による収益の拡大を目指してまいります。

一方、この第4四半期におきましては、アミューズメント業界で比較的閑散期となる中、全体のトレンドを保守的に見積もる必要があることや、通常年度末がピークを迎える戸建住宅販売部門においては、業界全般に施工職人の不足傾向がある中、完工時期が遅れ、当初見込んでいた年度内の引渡しที่ไม่透明であることなどを踏まえ、第3四半期累計期間の実績では通期予想を上回っているものの、通期の連結業績予想は据え置くものと致します。

本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づくものであるため、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実行税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,081,578	3,083,791
受取手形及び売掛金等	1,140,552	922,222
未成工事支出金	209,354	—
仕掛販売用不動産	345,201	478,254
販売用不動産	1,141,550	1,367,131
商品	187,993	139,631
貯蔵品	92,152	83,265
前払費用	517,952	485,198
未収入金	82,486	47,511
前渡金	37,371	101,667
繰延税金資産	93,417	92,708
その他	194,316	123,181
貸倒引当金	△1,950	△1,241
流動資産合計	7,121,978	6,923,320
固定資産		
有形固定資産		
アミューズメント施設機器（純額）	2,323,791	1,873,304
建物及び構築物（純額）	1,986,050	1,804,494
工具、器具及び備品（純額）	106,661	80,728
機械装置及び運搬具（純額）	1,137	1,884
リース資産（純額）	61,601	24,836
土地	1,437,968	1,651,475
建設仮勘定	24,672	38,721
有形固定資産合計	5,941,884	5,475,446
無形固定資産		
借地権	526,355	526,355
のれん	144,862	92,438
ソフトウェア	34,305	22,126
その他	607	607
無形固定資産合計	706,131	641,528
投資その他の資産		
投資有価証券	33,786	36,581
出資金	9,403	10,413
長期前払費用	32,851	38,745
敷金及び保証金	6,308,484	5,884,021
破産更生債権等	116,070	112,553
繰延税金資産	437,614	429,658
その他	180,134	192,634
貸倒引当金	△205,232	△201,844
投資その他の資産合計	6,913,112	6,502,765
固定資産合計	13,561,128	12,619,739
資産合計	20,683,106	19,543,060

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金等	953,637	747,214
短期借入金	662,000	764,605
1年内返済予定の長期借入金	1,147,418	1,258,467
リース債務	10,460	10,460
未払金	1,734,818	1,215,237
未払費用	87,619	79,743
未払法人税等	84,030	80,057
未払消費税等	22,434	81,514
前受金	190,100	139,601
預り金	76,567	61,675
未成工事受入金	36,782	—
資産除去債務	60,228	12,860
その他	6,955	49,263
流動負債合計	5,073,055	4,500,702
固定負債		
長期借入金	4,319,542	2,996,406
長期未払金	447,041	333,329
預り保証金	481,632	432,155
リース債務	8,717	871
資産除去債務	191,086	196,592
固定負債合計	5,448,020	3,959,355
負債合計	10,521,075	8,460,057
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,405,000	4,405,000
資本剰余金	4,797,051	4,797,051
利益剰余金	959,414	1,878,864
自己株式	△2,112	△2,489
株主資本合計	10,159,352	11,078,426
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,677	4,576
その他の包括利益累計額合計	2,677	4,576
純資産合計	10,162,030	11,083,003
負債純資産合計	20,683,106	19,543,060

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	17,736,723
売上原価	14,654,116
売上総利益	3,082,607
販売費及び一般管理費	1,866,675
営業利益	1,215,931
営業外収益	
受取利息	1,199
受取配当金	898
広告協賛金	54,005
その他	43,479
営業外収益合計	99,583
営業外費用	
支払利息	186,567
その他	26,525
営業外費用合計	213,093
経常利益	1,102,422
特別利益	
固定資産売却益	62,663
違約金収入	88,538
その他	1,328
特別利益合計	152,530
特別損失	
固定資産売却損	58,285
固定資産除却損	9,764
減損損失	28,439
その他	7,165
特別損失合計	103,655
税金等調整前四半期純利益	1,151,297
法人税、住民税及び事業税	84,834
法人税等調整額	7,772
法人税等合計	92,607
少数株主損益調整前四半期純利益	1,058,689
四半期純利益	1,058,689

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

当第3四半期連結累計期間
(自平成25年4月1日
至平成25年12月31日)

少数株主損益調整前四半期純利益	1,058,689
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	1,898
その他の包括利益合計	1,898
四半期包括利益	1,060,588
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	1,060,588

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 3
	アミューズ メント事業	建築事業	不動産事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	12,781,970	1,073,783	3,878,480	17,734,234	2,489	17,736,723	—	17,736,723
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	41,480	—	41,480	—	41,480	△41,480	—
計	12,781,970	1,115,263	3,878,480	17,775,714	2,489	17,778,203	△41,480	17,736,723
セグメント利益 又は損失(△)	1,136,323	40,935	468,178	1,645,438	165	1,645,603	△429,671	1,215,931

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、パチスロ機周辺機器レンタル事業であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△429,671千円は、主として各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。